



# きずな 絆



暑くなったり寒くなったり、異常気象の今年ですが日差しは確実に次の季節を迎えようとしています。梅雨が過ぎると夏本番、体調管理しっかりできていますか？



## 「老いて逝く心の備え」

十数年前、福祉のターミナルケア「医療での死」から「自然な死」への方向転換を日本で推進したところ「患者の切り捨て」の声があがりました。病院以外での死に場所を選ぶということは、治すための治療はあきらめる、止める、死に向かうことを受け入れる決断が必要になります。終末期のありようは国や地域社会、文化と深く関係がありますね。日本尊厳死協会の副理事長、松根敦子さんは言います。「何を着よう、何を食べようというのと同じように、最期だって自分で決めたいわよね。」



つひにゆく道とはかねて聞きしかどきのふ今日とは思わざりしを

在原業平



(誰もが自分はいつの日か死にゆく存在であると知りながら、それが今日、明日のこととは思ってもみないものである。)

### 祈る

父の仏壇の前で手を合わせるとき  
母のことをどのようにお願いしようかと迷う。  
「病気が治りますように」  
と祈るにも  
アルツハイマーという病気は  
治りそうもなく嘘くさい。  
「母が一番辛くないようにしてください」  
と祈るとなると  
母の息がすっかり止まり  
安らかな顔が脳裏に浮かぶ。  
「母が幸せになりますように」  
と祈るとなると  
天国へ行って父と再会し  
もうポケもどこかへいってしまった  
りりしくて嬉しそうで幸せそうな  
母の顔が目に見え、  
結局何にも祈らず  
「まだ母さんを連れて行かないでよ父さん」  
と小言のようなことを  
父の写真に向かって  
毎朝毎朝  
お経のように言う。  
(藤川幸之助 「満月の夜、母を施設に置いて」中央法規)

### まなざし介護

「することではなくしないことにも介護の本質がある。人と人がそこにいて存在しあうことに自体に意味がある。支える側が支えられるときがある。」



藤川幸之助 (ふじかわ こうのすけ)  
詩人・児童文学作家。  
認知症の母親に寄り添いながら、命や認知症を題材に作品を作り続けています。



お困りの方がいらっしゃいましたらお気軽に  
社協介護支援センター（45-3073）までご連絡ください。  
ケアマネが迅速に対応させていただきます。

